

加速する
出版流通
システム

新型「KINO ナビ」を導入 光和コンピューターが開発

書籍検索、ポイント、電子書籍などの店頭連携を図る

紀伊國屋書店は今年 6 月から、店頭の検索端末「KINO ナビ」を光和コンピューターのシステムに移行している。新たにポイント照会機能を付加したほか、検索画面の上部に書籍広告などの動画を放映するデジタルサイネージ「ほんやチャンネル」を搭載するなど、機能強化を図っている。

紀伊國屋書店

中小規模店にも設置へ

新型の「KINO ナビ」は、光和コンピューターが提供する店頭端末「PiTSPOT (ピットスポット)」の筐体と、検索システム「Web タッチパネル」をベースにして、紀伊國屋書店専用に開発した。

6 月に横浜店とさいたま新都心店に導入したのを手始めに、8 月までに 8 店舗に導入し、9 月には新宿本店に 19 台、さらに年内に 7 店舗に導入。今期中 (2013 年 8 月) には国内 64 店舗中 31 店への導入を予定している。

最終的には小規模のランドビル店 (大阪市)、

千歳店 (千歳市) を除く 62 店での導入を予定しており、この中には従来「KINO ナビ」を設置していなかった中小型店舗も含まれている。これは、検索機能に加え、ポイント照会などの新機能が加わったためだ。導入台数は約 200 台を想定している。

店売総本部店売推進本部・西根徹本部長は、新型のメリットとして、「検索のレスポンスがよくなったこと、一体型になったことで、移動やメンテナンスが容易になりました」と話す。

99 年に福岡本店で導入開始

「KINO ナビ」は当初、1999 年 5 月にオープンした福岡本店 (福岡市) で導入を開始した。同店は同社で初めて棚番による本格的な単品管理を始めた店舗だったことに加えて、「当時は書店界で 1 フロア最大の 1000 坪の店舗で、どこに何があるのか探すのが大変でしたので」と、今年 9 月まで福岡本店に在籍した店売総本部店売推進本部・田中希望部長は導入した経緯について説明する。

その後、新宿本店 (新宿区)、梅田本店 (大阪市) ほか全国 56 店舗に導入してきたが、ハード・ソフトともに老朽化が進んだため、2010 年にシステムを入れ替えることになった。

光和コンピューターとは、2008 年 12 月に開店した丸亀店で書店システム「BOOK ANSWER」と「Web タッチパネル」を導入。2010 年から全店の書店システムを順次「BOOK ANSWER」に入れ替え、2012 年 11 月までに導入を完了。「Web タッチパネル」は横浜みなとみらい店 (横浜市)、いよてつ高島屋店 (松山市)、梅田本店で導入実績があった。

電子書籍との連携も

新型「KINO ナビ」は、ポイントの残高照会、キャンペーン情報の表示などを可能にし、「ほんやチャンネル」のサイネージを搭載した。

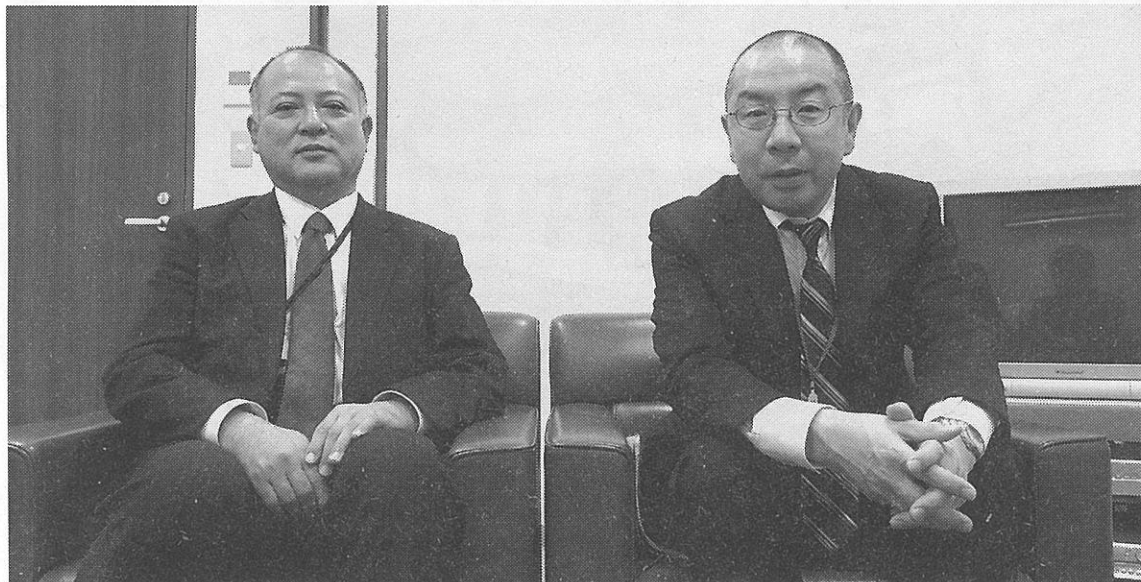
同社のポイントサービスは、店頭、オンライン販売、電子書籍で連動しており、会員であればサイト上で残高などを確認できるが、「店頭で申込用紙を使って登録したお客様の中には、メールでアプローチできない方もいらっしゃいます。そういう方に店頭で確認していただくこともできるようになります」と西根本部長。

また、検索結果には電子版の有無も表示するようにした。同社では電子書籍を販売するサイト「BookWebPlus」を開設し、電子書籍アプリ「Kinopy」を提供している。こうしたオンラインでの電子書籍配信に加え、現在、各店舗に公衆無線 LAN サービス「紀伊國屋書店 Wi-Fi」の導入も開始し、電子書籍と店舗との連携を図っている。



新宿本店 2 階に設置した新型「KINO ナビ」

検索結果に電子版の有無を表示することで、「在庫切れの書籍でも電子版を購入していただける導線にしたいと思います」と西根本部長。また、「今まではサービスごとにシステムがありました。すべてを連携させていこうという流れです」と田中部長は説明する。



西根本部長 (右) と田中部長

「ほんやチャンネル」で動画配信

「ほんやチャンネル」は、もともと通販大手のニッセンと光和コンピューターが開発したデジタルサイネージシステムで、書籍広告などの動画が配信される。コンテンツはニッセン、光和コンピューター、紀伊國屋書店が共同事業として営業、制作している。

同書店では POS レジにもサイネージを設置しているが、POS のサイネージは静止画、「ほんやチャンネル」は動画という棲み分けを行っている。今後は店頭の大規模サイネージ「KINO ビジョン」の動画コンテンツとの共通化も図っていくという。